

4年 ふくし移動講座

R2.2.21



4年生は総合的な学習の時間に、福祉について勉強しています。社会福祉協議会とボランティアの方々にご協力いただき、「アイマスク体験」「高齢者疑似体験」「車いす体験」の福祉体験を行いました。

体験を通して、体の不自由な人々の大変さを知り、そのような人と出会ったときに自分たちにはどんなことができるのかを考え、「共生」についての理解を深めることができました。



まずは、社会福祉協議会の方の説明を、よく聞きました。

アイマスク体験

アイマスクをして目が不自由な方の体験をしました。普段書きなれている自分の名前は、思ったよりも上手く書けました。しかし、いざ歩いてみると「どこを歩いているのか分からない」「音が怖い」という声が多かったです。補助して歩く人の声掛けや誘導が、とても大切だということが分かりました。



高齢者疑似体験

おもりや、動きにくくなる装具、くもりメガネを身体につけて歩いたり、新聞の文字を読んだり、ピンのふたを開けて小さなおはじきを選ぶ体験をしました。「段差がよく見えない」「手に力が入らない」「小さな文字が読めない」という高齢者の大変さを学びました。装具を外したあとには、「軽くなったみたい!」と、普段自由に動けるありがたみも分かりました。



車いす体験

車いすでは、ちょっとした坂や段差が大きな障害になることや、水道で手を洗うといった動作も大変だということが分かりました。道を開けたり、サポートしたりする大切さを学びました。

